

(様式-2)

時層建築 -溶岩に埋もれた大地の再考-

横浜国立大学 建築学科
久米 雄志



construction
volcano will erupt
re-construction



海から見る



研究所から海を見る



フェリーターミナル周辺



研究所を見る

設計主旨 concept

桜島の玄関口である横山町は、かつて大正噴火によって溶岩に埋まり、周囲と時間の連続性を失った土地である。そこには昔からあった桜島ならではの火山とともにある人々の営みの風景はなく、地形を無視した郊外型開発がなされ無味乾燥な風景が広がっている。

そこで地形を顕在化させるように大地の上に重なり、様々な事象に対して構えを持つ建築を提案する。

桜島の玄関口の新たな水際風景を創出し、研究者と住民、観光客が出会う桜島そのものを可視化するような建築である。その建築は桜島本来の営みを体現するように自然のあいだを縫い、様々な事象をまとう。

そして最終的に溶岩をいなすことで海から山へのつながりを残し復興の軸となる。